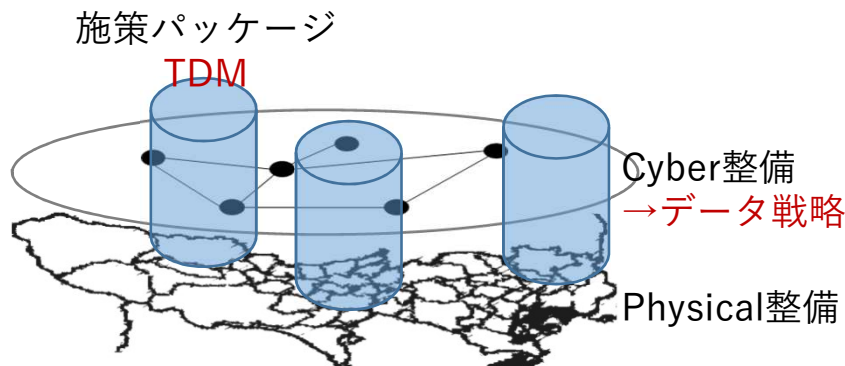


将来像の実現に向けた更なる検討 検討の進め方イメージ

「5-4.将来像の実現に向けた更なる検討」の目的

行政としての課題（ねらい）	アプローチ	具体的な取組例	裏付けとなるデータ
○公共交通の持続可能性向上 ・民間路線バスについて、 望ましいサービス水準を確保 するなど、 公共交通通分担率の維持 につなげる仕組みが必要 ・営利事業としての運営が難しい、行政補助投入路線やコミュニティ交通については、運行補助の投資費用対効果を確保するよう、 適切な目標水準の設定と収支率改善 に向けた取組が必要	需要者サイド	・公共交通の利用促進（自家用車からの転換、潜在需要喚起） ・公共交通を利用しやすいまちづくり（集約型地域構造）	・運行情報 ・利用情報 ・その他情報（都市計画データ）
	供給者サイド	・利用者確保につながるサービス水準の維持 ・利用者ニーズに合わせた路線再編	・利用情報 ・その他情報（自家用車プローブ）
○移動サービスの質向上 ・限られた輸送資源の中で、 快適で効率的な移動サービスを実現 することで、公共交通が選ばれ続ける環境を作ることが必要 ・ 移動を起点とした新たなサービスの実現 に、多様な主体が参加できる環境を整えることで、都市活動を活発化させることが必要	輸送改善	・需要平準化方策（ダイナミックプライシング、就業時間等調整） ・需要に応じた輸送量の調整 ・供給量の増加（速達性向上、交通容量拡大）	・運行情報 ・利用情報 ・その他情報（沿線施設情報）
	利便性向上	・シビックテックを含む、多様な主体の参加（MaaSなどの新しいサービス）	・運行情報 ・（利用情報）

↓
 持続的な移動サービス提供を支える、**将来にわたる維持・充実に**に向けた検討



需要者・供給者・行政とが三位一体で進める、需要平準化や行動変容に向けた**取組のパッケージ**検討

需要平準化等

政策検討・推進・効果検証を支える、**取組の基盤としてのデータ戦略**

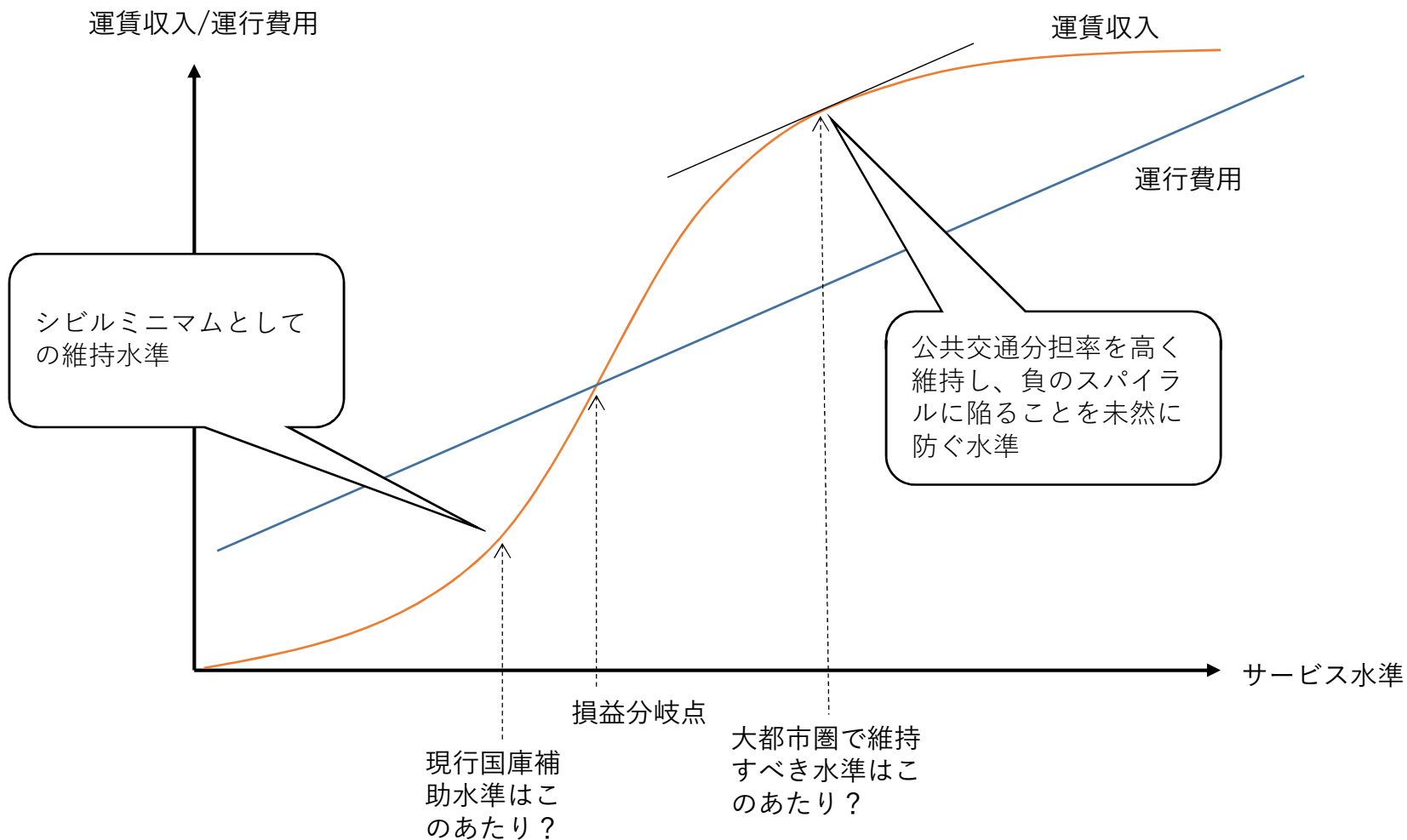
データ戦略

将来にわたる維持・充実

サービス水準の在り方のイメージ（仮説）

将来にわたる維持・充実

- 公共交通分担率が高く他地域とおかれている状況が異なる大都市圏においては、その特性に合った、目指すべきサービス水準があると思われる。



○ 都内における公共交通ネットワークの評価


- 都内全体を見通して、沿線都市施設、利用状況等も踏まえ、公共交通ネットワークを評価

○ 都として政策的に重視する路線の抽出

- 広域性、公益性、収支採算性、代替可能性、政策目的等の観点から、都として政策的に重視する路線を抽出

○ 支える仕組みに関する検討

- 路線の性質、地域の特性に応じ、公共交通分担率を高く維持するために行政として確保すべきサービス水準の検討
- サービス水準の確保に向けた、民間活力を含め様々な工夫により成り立つ新たな仕組みづくり、費用負担と財源の在り方の検討

 **【アウトプット】** 公共交通の維持・充実に向けた新たな仕組みを構築

データ共有と活用の仕組みイメージ（全体像）

「公共交通の持続可能性向上」「移動サービスの質の向上」に向けた取組展開



○交通政策へ応用（交通事業者、行政）

- TDM施策の実施
- 政策立案・交通施策の効果検証とフィードバック
- KPIのモニタリング

などへ活用

○地域公共交通に係る統計データや情報を整理

- 整理した情報をデータ提供者などへフィードバック

協調的データ

競争的データ

その他データ

データ

想定されるデータの種類

- 時刻表、バスロケ
- 停留所
- 運賃表
- ...

- 乗降、決済
- 経路検索
- ...

- 人流
- 沿道施設情報
- 都市計画情報
- SNS・口コミ等
- ...

検討の進め方イメージ

○ データ整備の促進


- コミュニティ交通
 - 新規導入路線：データ整備・提供を、段階的に都補助の要件化
 - 既存路線：区市町村に整備を働きかけるとともに、技術的支援実施
- 民間交通事業者（路線バス等）
 - データ整備の課題（目的・公開範囲、費用、技術面）について、交通事業者へのサウンディング調査を実施
 - 事業者と都で勉強会を立上げ、データ流通の望ましい姿について協議
- 民間交通事業者（シェアリング、相乗り等の新サービス）
 - データ整備・提供と、都の協力を連動させることなどを検討
- 行政保有データ
 - 民間交通事業者の要望を調査し、提供可能性を検討

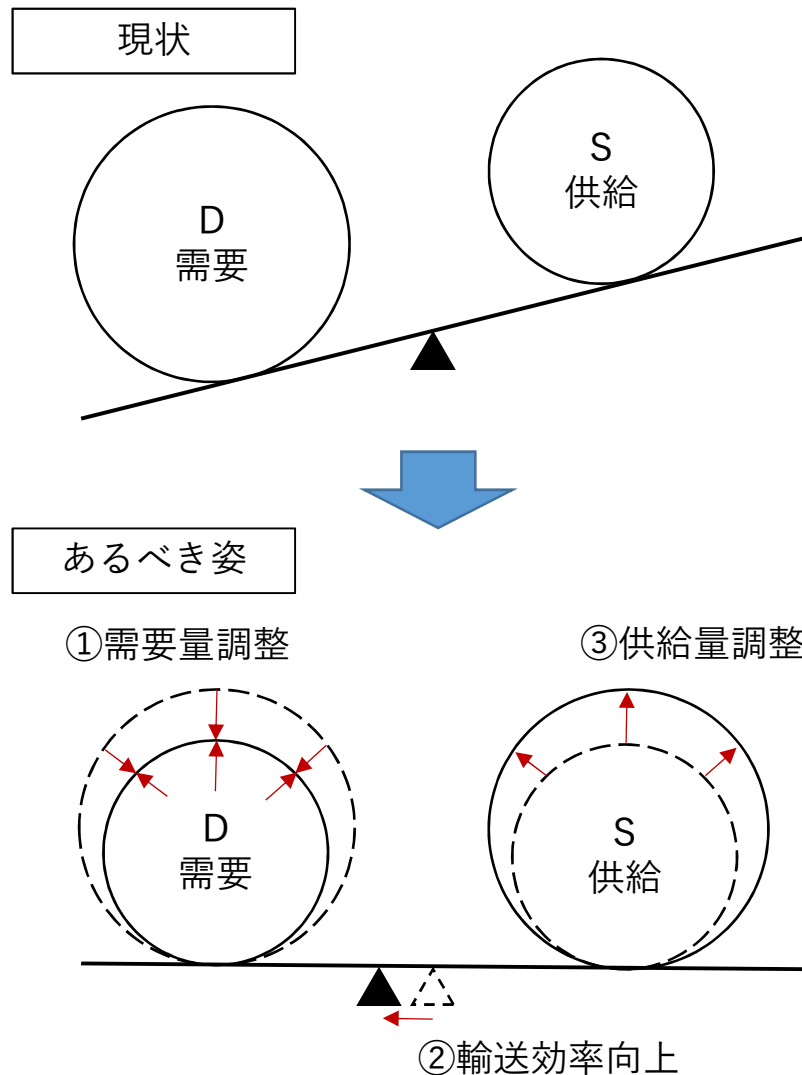
○ データ共有の仕組み検討

- 競争的データの限定利用条件について、交通事業者へのサウンディング調査なども踏まえ検討

○ データの利活用方策の整理

- 取得したデータを基にした、都市・交通の政策・計画立案、政策効果のモニタリングへの利活用策、シビックテック等多様な主体が活躍できる環境整備に向けた方策を整理

 【アウトプット】 データ整備・共有のルールを取りまとめ




「公共交通の持続可能性向上」「移動サービスの質向上」に向けて、需要者・供給者・行政が一体となって、以下の取組をパッケージとして展開

(取組の例)

- ① 需要量調整
 - プライシング等による需要抑制
 - 自家用車からの転換促進等による、需要創造
- ② 輸送効率向上
 - 需要量に応じて輸送量を調整する、輸送資源の適正配置
 - 就業・就学時間の調整等による、需要時間の適正配分
- ③ 供給量調整
 - 交通規制やPTPS導入等による走行時間短縮
 - バスターミナルの効率的利用による容量拡大

- 効率的な輸送の実現やサービスの質の向上に向けた課題整理
 - モデル事例実施の候補地、手法を検討
 - 公共交通の持続可能性向上
想定地域：地域公共交通のサービス水準維持に課題が見込まれる地域
想定取組：利用者ニーズに合わせた路線再編、自家用車からの転換促進
利用時間帯の集約化による輸送の効率性向上 など
 - 移動サービスの質の向上
想定地域：混雑、速達性低下などサービスの質に課題が見られる地域
想定取組：輸送資源の適正配置、就業時間等の調整による需要平準化、
速達性向上や交通容量の拡大による輸送力増強 など
 - 事業者、地域との協議が整い次第、モデル事例として実施
- 交通需要マネジメントを支える仕組みの検討
 - 施策の検討・推進・効果検証を支える、交通データの整備を促すデータ戦略を検討（先述）
 - 運賃制度の在り方など、都全域を想定した適切な利益配分の仕組みや導入可能性を検討

 【アウトプット】モデルとなる事例の実施と、成果の政策への反映